

曲がる楽しさ

ステアリングを切らなければ目的地にはたどり着けません。クルマにとって、それほどまでに当たり前の「曲がる」という行為を、感動的な体験へと変えようと、私たちは考えました。

ステアリングの切り始めでは、自分を中心として「スッ」とクルマが向きを変え、「ピタッ」と路面に貼りつくようにコーナリング。「グッ」と踏ん張りながら、「ガッン」と力強いトラクションで立ち上がって行く……。

初めてスポーツカーに乗る人が一生忘れられなくなるほどの、あるいはスポーツカーを乗り継いできたベテランが「コレだよコレ!」と唸ってしまうような「曲がる楽しさ」を通勤途中のような道でさえ味わえるようにすることを目指しました。

「スッ」とノーズが入る

「ピタッ」と路面に貼りつく

「グッ」と踏ん張る

「ガッン」と立ち上がる



昨日と違う発見があるクルマを

私がいまハマっている楽器もそうですが「昨日できなかったことが今日はできるようになる」というのはむちゃくちゃ楽しいものです。S660は、よく曲がる、クセが無い、懐が深い。そんなクルマづくりを目指しました。きつと、毎日乗る度に新しい発見があり、走ることをもっと好きになってもらえるはずです。

シャシー担当
岡義夫



乗って、議論して、考える!

このクルマが目指した走りの世界は、自分の担当であるシャシーの開発だけを黙々とやっていたのでは決して形になりませんでした。チーム全員でクルマにいっぱい乗って、いっぱい議論して、いっぱい考える。そんなプロセスがあったからこそ、完成したのだと思っています。

シャシー担当
桑原宣弘



領域を跨ぎ、あちらへこちらへ

開発の間は、私の担当領域である「ボディ」をつくっているというよりも、みんなで考えたS660のコンセプトをかたちにするという、「本来のクルマづくり」のためにあちこち走り回っていました。操縦安定性、スタイリング、エンジン性能と、各機能を横断して仕事をするのはエキサイティングなものでしたね。

ボディ担当
糸川咲太郎



これぞHondaスポーツの味!

CR-X、シビック TYPE R、インテグラ TYPE Rのサスペンションを担当してきた経験を活かして「Hondaのスポーツカーの乗り味」をS660に注ぎ込みました。あの「乗り味」を、誰もが走り出した瞬間に、そして通勤の途中でも存分に楽しめるクルマに仕上がったと自信を持っています!

LPL代行
深海政和



「道無き道」を愛する

私の大好きなスノーボードやオフロードバイクと同じように、チャレンジが必要で、時には骨折したりもしますが、ギブスをしてでも、またやりたい。諦めたくない。そんな「道無き道を行く」というのが「スポーツカー開発の道」なのかもしれません。楽しいクルマができましたし、私たちもまた、開発を楽しみました。

LPL代行
安積悟